

◀日本一の霊台橋



▶万坂峠より緑川ダムを望む



◀発展する市街地周辺



▶57年4月から統合中となる西中校舎

わが町

わが村

砥用町は、熊本市の東南三十八^ノの地点に位置し、標高百五十三^ノ、東西四十四^ノ、南北十^ノ、面積百一・七五平方^ノであり、南部は標高千^ノを超える雁俣山等の九州山地が連なり、町の中央部を東西に緑川が貫流しています。また、総面積の七十五^ノを森林が占める中山間地帯です。一方交通面は、国道218号線と新国道445号線の二路線が、それぞれ町内を走っています。人口は九月末現在で九千八百四十六人、世帯数は二千五百五十八戸です。

この時代当地は「砥用手永」と称し、一行政区をなしていました。

明治二十二年の町村制施行に際し、砥用村、西砥用村の二ヶ村に分かれ、その後、西砥用村は大正十三年四月町制を施行し砥用町となりました。昭和三十年四月一日両町村は合併し、同年七月一日中央村の一部を編入、砥用町として現在に至っています。

砥用町は素晴らしい自然、多数の景勝地、史跡、文化財等を有しています。特に矢部周辺、五木五家荘両県立公園、九州中央山地国定公園予定区域内にあり、

豊かで健康な

町づくりを目指して

国道開通による万坂峠から見る緑川ダム周辺は、県の名勝百景の上位にランクされています。

△霊台橋と船津峽▽弘化四年(一八四七)に完成した国の重要文化財霊台橋は、単一拱の右造眼鏡橋としては日本最大のもので、また、砥用町は日本における右造眼鏡橋の宝庫といわれ、大小二十五余の石橋が散在しています。尚、霊台橋の復元工事の完成や、周辺は県立公園としての整備も進み、218号線の途中休息地として最適です。

△緑川ダム▽緑一色の山間にぽっかりと開ける人造湖。思わず嘆声を上げて見

渡す群青の湖面は、満々と水を湛えて遙かな対岸を浸しています。ダムの長さ二百九十五^ノ、高さ七十七^ノの重力式コンクリートダムと、自然石を積重ねたロックフィルダムとの組合わせがその特長で、県下最大のダムです。ダム周辺は環境整備が進み、一大自然公園地帯となっています。また、コイ、ワカサギなどの釣りを楽しむことも出来ます。

砥用町にはこのほか、国指定重要文化財釈迦如来像が安置されている福城寺。東洋一の林道橋内大臣橋。国民保養センター雁俣荘など多くの観光資源があります。

砥用町の基幹産業は農林業です。農業の中心は米、畜産、葉タバコ、養蚕、クリが五本の柱となっていました。最近では、メロンやキウリなどの施設園芸もさかんになりました。かつて「肥後の赤牛」として有名だった牛も伸び悩みの状態でしたが、現在その振興に非常な力を入れていきます。また、受益面積二百二十八^ノの西台地土地改良事業をはじめ、多くの土地改良事業に力を入れ、現在農村定住促進対策では場整備や、かんがい排水事業に取り組んでいます。

砥用町の総面積のうち七千六百五^ノが

森林です。これら雄大に広がる森林資源の開発は、町振興の大きな基本となりますので、林道網の開設など強力な対策を推進しています。また、森林のうち八十^ノほどが人工林となっています。近年、伐期に達する林地が全体の五十^ノ見込まれていますので、今後の素材生産の増大が期待されています。

商工業面では、地場産業の振興に力を入れています。また、今後の交通網の整備強化と水資源確保を背景に、企業誘致にも取り組んで行く計画です。

教育関係では、永年の懸案事項であった学校統合問題が解決し、小学校七校(分校二を含む)が、二校に、中学校二校が一校にそれぞれ統合されます。実施時期は五十七年四月一日からであり、ここに一中二小という砥用町教育史上、新しい一ページをかざることになりました。また、社会教育の充実に積極的に取り組んでおり、施設や指導体制の強化をはかっています。一方、社会体育の面では県下有数の総合運動公園の完成を目指し、施設の充実に努めています。

砥用町の素晴らしい自然、澄んだ空気とうまい水、そして何にもまして町民の心の奥に秘めた情熱と、温かい人情はかけがえのないものであり、数字で表わしうることはできません。現在、砥用町はこれらの自然に恵まれた、豊かで健康な町づくりを目指し大きく発展しています。

砥用町

「砥用」という名の起りは、平安時代の承平年間(九三二～九三七)につくられた、倭名抄に「富神」と出ているのが始まりといわれています。とむちの「と」は山「むち」は神の意があり、山と神の郷又は山神の郷ということになります。その後、当地は豪族阿蘇氏の支配を受け、早楠神社に阿蘇惟村の墓があることや、惟忠、惟富など阿蘇大宮司数代の古文書が保存されていることから、一時は重要な根拠地を占めた時期もあったようです。戦国末期に島津義久、秀吉の時代には小西行長、加藤清正の支配を受け、江戸時代におよんで、細川忠利は手永制度をおき明治維新までの二百数十年間、手永制度の藩政が行われましたが、